特 集

臨床実習で MTDLP を 使ってみました

─教育から現場での実践まで

編集担当 渡邊 基子

養成教育における MTDLP 教育の必要性			
	土井 勝幸 ————	•179	
養成校における MTDLP 教育の実践			
	机 里恵,他 ————	•185	
急性期病院の臨床実習で MTDLP を	I		
使ってみました	木下 剛 ———	- •191	
回復期病院の臨床実習で MTDLP を			
使ってみました	生澤 祥樹,他 ————	• 1 97	
介護老人保健施設の臨床実習で MTD)LP を		
使ってみました	土井 宣幸,他———	•203	
精神科領域の臨床実習で MTDLP を			
使ってみました	川上 孝行 ————	•209	
臨床実習の中で臨床教育者が学生と			
MTDLP を有効に使うために	小林 幸治 ————	•214	
共育としての MTDLP-特集のまとめ	渡邊 基子	•220	

烈闘作業療法

回復期の経	験を活か	して認知症	E初期集中支援に
取り組む	(村島)	入美子さん)	

連載	【新連載】病棟リハの在宅での活かし方 在宅を見据えて回復期のリハをすること	久世 昭宏 ——— ●222
	【最終回】レストラン OT 奮闘記一汗と涙の就労支援 今後の障がい者雇用では何が大切になるのか	仲地 宗幸 ——— ●234
	CI セラピーのいろは 生活場面への汎化の定着を強化する行動療法 (トランスファ・パッケージ)―その 2 行動契約	田邉 浩文 ——— ●238
	ADL 潜考と実践 トイレ動作への介入	字野 正顕 ——— ●242
	らんどまーく	大郷 和成 ———— ●170
コラム	価値観こそ自己実現の土台! OTとして私が大切にしていること	
	作業療法の主役は人である	中越 太一 ——— •226
	掘り起こせ"やる気"OT スコップ隊 認知症の人編 作業療法士のマネジメント (その 4)	上城 憲司, 他 —— ●229
	女性 OT ひとりで悩まないで その時の状況において輝ける自分を	宇田 薫, 他 ——— ●230
	なんでもできる 100 均グッズ いろんな素材の粘土系グッズで遊ぼう	宮坂 竜太, 他 —— ●232

【表紙の言葉】

船の上ではなんだか自由でなんでも笑える その人らしい生活を支援する作業療法 その源をいつも海で感じる コング丸は精神障がい者と共に就労継続支援B型事業で漁業を行っている (仲地宗幸〈㈱ NSP キングコング〉)

「海は思い通りにならないなー」 もう1人が言った「俺らもな」



●列間作業療法 Passion of

回復期の経験を 活かして認知症 初期集中支援に 取り組む

村島 久美子さん

桜新町アーバンクリニック <u>OT</u> 14 年目,千葉県在住 2018年までに、すべての市町村への設置が目標とされている認知症初期集中支援チーム。その普及・啓発に携わっている村島久美子さんを取材した。

「自治体から認知症初期集中支援に声をかけられたら、可能な範囲で多くのOTに関わってもらいたい」という村島さん。ハードルが高いと思われる方もいるかもしれないが、皆最初から認知症支援が専門だったわけではない。回復期で積んだ経験を活かしながら取り組む村島さんの姿に、背中を押されるOTも多いのではないだろうか。(編集室)

祖母の"言語聴覚療法"がきっかけでリハの道へ

----まずは, OT になられたきっかけから伺って



特集

臨床実習で MTDLP を 使ってみました

──教育から現場での実践まで

日本作業療法士協会では、生活行為向上マネジメント(以下、MTDLP)を、「作業療法の30cmのものさし」と称し、すべてのOTが用いることができるツールとして位置づけている。現職者に対しては、卒後教育として各都道府県の作業療法士会主催の研修会が開催されており、全会員が受講することが推奨されている。一方、教員向け研修会も開催され、卒前教育としてOT養成校においてMTDLPの授業がカリキュラムに組み込まれるようになってきた。今後、学内教育でMTDLPを学び、MTDLPを臨床実習で使用することも増えてくると予想される。卒前教育、臨床実習、そして卒後教育において一貫してMTDLPを用いた教育を行うことで、MTDLPを活用できるOTの育成につながると考える。

そこで、本特集では、先駆的に卒前教育において MTDLP の授業を組みこんでいる養成校、臨床実習で MTDLP を使用している実習施設の取り組みを紹介する。今後の導入を検討している養成校や実習施設の参考になれば幸いである。

編集担当:渡邊 基子 (介護老人保健施設 ゆうゆう)

養成教育における MTDLP 教育の必要性

Katsuvuki DOI

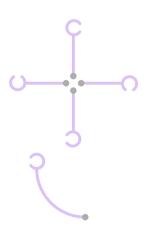
土井 勝幸

●日本作業療法士協会 副会長 (MTDLP 推進プロジェクト委員会担当理事), 作業療法士

内容を理解するためのキーワード 生活行為向上マネジメント 養成教育 教員研修

作業療法のポイント

- ●日本作業療法士協会(以下, OT協会)は養成教育における生活行為向上マネジメント(以下, MTDLP)の普及に積極的であり、養成校側でも、すでに50%強がなんらかの形で講義を行うなど、浸透し始めている。
- ●臨床実習では対象者の機能への介入が中心となり、具体的な作業への支援がおろそかになりがちなため、対象者と向き合うための最低限の学習や経験が不足してしまう。そこで MTDLP を用いることで、生活行為の向上に向けた支援の経験・学習ができる。



はじめに

多くの OT は、MTDLP の研修は受けたが、実践 していない. あるいは実践してみたが日常業務に 忙殺され、実践には課題を感じているという。以 前、「やってみました?! はじめての生活行為向上 マネジメント」という特集を本誌(『臨床作業療 法』13巻3号、2016年7・8月号)で企画したが、 その特集の意図は、このような方を対象に、あえ て同じく実践初心者の方々にさまざまな分野から 執筆していただくことで、課題や有効活用のポイ ントを共有することにあった。MTDLPは、作業 療法の対象者と支援目標を共有し、対象者が自分 の回復に積極的に関与できるよう工夫されてい る。だからこそ、対象者に寄り添い、可能性を引 き出し、引き出された"本人が望む作業"を定着 させる支援となる MTDLP を実践してほしいので ある。

OT 協会は、MTDLP をすべての OT が実践する

養成校における MTDLP 教育の 実践

Rie TSUKUE

Mayumi MIZUSHIMA

Hiroshi AKIMOTO Hiroyuki UCHIYAMA

机 里恵,水島 眞由美,秋本 浩,内山 博之,

Osamu SUGIYAMA Yuki ISHII

Naoki MISHIMA

杉山 修, 石井 有希, 三嶋 直己

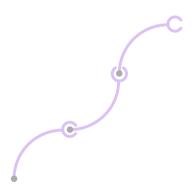
●横浜リハビリテーション専門学校 作業療法学科, 作業療法士

内容を理解するためのキーワード

生活行為向上マネジメント 作業療法教育 臨床実習での有用性

作業療法のポイント

- ●学生の時から生活行為向上マネジメント(以下、MTDLP)を活用して標準的な思考過程を学び、臨床実習でその過程を実践することによって、学生はより効果的に効率よく「作業療法」を学ぶことができる。
- ●対象者の「意味ある作業」に向き合うことで対象者との信頼関係が深まり、学生 自身の実習へのモチベーションを高めることができる。



はじめに

2015年(平成27年)夏季に日本作業療法士協 会(以下, OT 協会)による OT 養成校教員対象の MTDLP 研修会が実施され、同年に卒業予定の学 生から、MTDLPの卒前教育を実施することと なった。教育に携わっていると、作業療法を伝え ることの難しさを痛感する。そのため、今回の教 員向け研修会を受講し、「対象者にとって意味の ある作業 | に焦点をあてた作業療法教育を目指す という方針に非常に感銘を受け、横浜リハビリ テーション専門学校(以下.本校)の教育に MTDLP を積極的に導入したいと考えた。翌年、 2016年(平成28年)から本校は、MTDLP推進協 力校 B として、MTDLP の教育基準の作成や臨床 実習における MTDLP の活用について検討してき た。以下に、学内教育での工夫点や臨床実習にお ける導入方法について、学生からの意見も踏まえ て報告する。

急性期病院の臨床実習で MTDLP を使ってみました

Go KINOSHITA

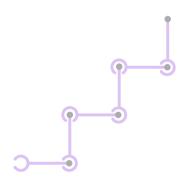
木下 剛

●済生会横浜市東部病院,作業療法士

内容を理解するためのキーワード 急性期 介入可能な目標設定 短期間の介入

作業療法のポイント

- ●急性期病院の臨床実習で生活行為向上マネジメント(以下、MTDLP)を使用する場合は、短期的な介入になることを考慮して事例を選定する。
- ●合意目標の設定の際は、急性期病院の後は、回復期病院への転院か、または直接 自宅退院なのかを踏まえて、どの時点での目標とするかを考える。
- ●学生の実習中に、取り組みの成果がわかるような目標設定をするとよい。





当院(済生会横浜市東部病院)は、神奈川県横浜市の東部地域において急性期医療を提供する地域中核病院である。当院では2016年度より、OT養成校の要請を受けてMTDLPを用いた臨床実習を行っている。

筆者の MTDLP との関わりは、2011 年度の日本作業療法士協会(以下、OT 協会)主催の MTDLP 研修会に参加したことがきっかけであった。当時、OT 協会が作業療法の標準的なツールとすべく開発した MTDLPに、OT 協会の気概と時代の変革を感じ、その取り組みに協会員としても大きな期待を抱いたことを覚えている。そして平成23年度老人保健健康増進等事業〈生活行為向上マネジメントの普及啓発と成果測定研究事業〉のうちの1つの「脳卒中患者における早期医療での活用検討事業」において、当院は協力病院として参加し、当院の脳卒中患者2名に MTDLP を実践して事例報告を行った。その関わりの中で、MTDLPのさまざまな課題や可能性を見出すことができた。

急性期病院では MTDLP は使いにくいという印

回復期病院の臨床実習で MTDLP を使ってみました

Yoshiki IKEZAWA

Keigo TAKAHASHI

生澤 祥樹,高橋 啓吾

●リハビリテーション天草病院、作業療法士

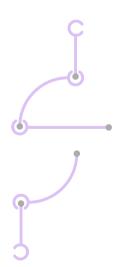
内容を理解するためのキーワード

「合意した生活目標」の形成

生活行為向上マネジメントシート 多職種連携

作業療法のポイント

- ●「合意した生活目標」の形成と共有は、事例との信頼関係の構築や、同じ目標に向かって協業していくために重要である。
- ●生活行為向上マネジメントシート(以下、マネジメントシート)を使用することで、事例の全体像や学生の思考過程が一目で把握できるよう可視化されるため、スーパーバイザー(以下、SV)も指導を行いやすい。
- ●生活行為向上マネジメント(以下, MTDLP)は、患者様の評価や治療といった 一側面に偏らず、目標設定や多職種連携、家族との関わり、環境調整など、入院 時や退院後のマネジメントにも関わる総合的な学びを提供できるツールとして活 用することができる。



はじめに

リハビリテーション天草病院(以下,当院)は、 埼玉県にある159 床を有する回復期リハ病院であ る。入院患者の疾患別の内訳は、脳血管疾患が約 8割、骨折などの運動器疾患が約2割で、365日体 制で日々リハを提供している。当院のMTDLPに 関わるスタッフには、埼玉県作業療法士会 MTDLP推進委員8名、MTDLP指導者1名がい る。MTDLP研修の履修状況は、基礎研修修了者 32名、実践者研修修了者10名がいる。

病院内での取り組みは、月1回程度の頻度で、 有志で集まった OT を中心に MTDLP の勉強会を 開催している。勉強会の内容は、入院患者様を対 象に各自でマネジメントシートを記載し、参加者 でディスカッションしている(図1)。それによ り、マネジメントシートの記載方法の習得を図る

介護老人保健施設の臨床実習で MTDLP を使ってみました

Nobuyuki DOI

Takashi BABA

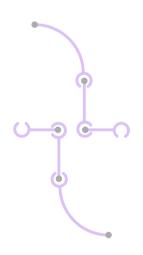
土井 宣幸*1. 馬場 孝*²

- *1介護老人保健施設はまかぜ、作業療法士
- *2YMCA 米子医療福祉専門学校,作業療法士

内容を理解するためのキーワード 作業療法の見える化 主体性 多職種連携

作業療法のポイント

- ●実習前に学生の生活行為向上マネジメント(以下, MTDLP)の習熟度を確認する。
- ●指導者の MTDLP 事例を学生に紹介、説明することで理解度の向上を図る。
- ●MTDLP の各種シートの過程を確認しながら実習を行うことで、学生の立場でも 多職種連携を主体的に体験することができる。





はじめに

筆者が MTDLP を知るきっかけになったのは、5年前に行われた日本作業療法士協会(以下、OT協会)主催の MTDLP 研修会である。その時は、何か面白そうなツールだなと漠然と思った程度であった。しかし、その後、OT協会内で MTDLP 推進プロジェクトが発足、各県の作業療法士会ごとに推進委員が選出されることとなり、縁があり鳥取県作業療法士会の MTDLP 推進委員を引き受けることとなった。そこから、MTDLP は国民に作業療法を分かりやすく示し、地域の中で OT が活躍するための1つの武器になるものであると感じるようになり、鳥取県作業療法士会内の MTDLP 委員会を設置し啓発を進めている。

その中で筆者らは、OT協会において平成28年度重点活動項目¹⁾にも挙げられている、養成教育課程におけるMTDLPの充実を図ることを目指し、YMCA米子医療福祉専門学校と共同して臨床実習でMTDLPを活用するための「鳥取モデル」²⁾の検討を重ねてきた。そのモデルをもとに介護老人保健施設はまかぜ(以下、当施設)では、2015

精神科領域の臨床実習で MTDLP を使ってみました

Takayuki KAWAKAMI

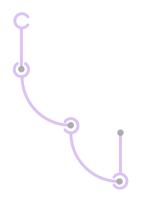
川上 孝行

●河口医院,作業療法士

内容を理解するためのキーワード 臨床実習 MTDLP 精神科領域

作業療法のポイント

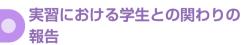
- ●生活行為向上マネジメント(以下、MTDLP)を用い、対象者と初期に課題や目標を共有することで、学生が対象者の生活行為の改善に向けて取り組みやすくなる。
- ●MTDLP は枠組みがしっかりしていることが利点であるが、精神科領域の対象者は病状が変化しやすいため、プラン通りにいかない時は、スーパーバイザー(以下、SV)から学生へのサポートが必要である。





河口医院(以下, 当診療所)は岡山県の南部, 瀬戸内海に面した港町である玉野市の市街地に位 置している。外来での診察に加え, 精神科デイケア, 重度認知症疾患患者デイケア, 精神科訪問看護・指導などの機能を有する多機能型精神科診療所である。2016年度の実習受け入れ実績は長期実習4名, 短期実習8名。在籍する3名のOTは免許取得後3年以上の経験年数を有している。

MTDLP 研修に関しては、本稿の報告の時点で 筆者が実践者研修修了、他の2名のOT は未受講 である。また、MTDLP を利用した臨床実習は、 書籍や日本作業療法士協会のホームページからの 情報を参考に2012年から実施している。



1 学生紹介

今回紹介する学生が在籍する OT 養成校は、日本作業療法士協会より MTDLP 推進協力校に認定

臨床実習の中で臨床教育者が 学生と MTDLP を有効に使うために

Koji KOBAYASHI

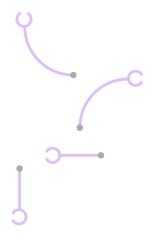
小林 幸治

●目白大学 保健医療学部 作業療法学科, 作業療法士

内容を理解するためのキーワード MTDLP 実習の利点 作業療法プロセス 教授法

作業療法のポイント

- ●生活行為向上マネジメント(以下, MTDLP)を卒前教育で行うことは, 地域包括ケアの中で作業療法の役割を位置づけるために, トップダウン思考による介入過程を学ぶうえで必要なことである。
- ●学生にとって、対象者の情報を整理しやすく、アセスメント・目標設定・プラン立案がみえやすい MTDLP のシートは学びやすく有用である。臨床実習では、ぜひ臨床の中で臨床教育者(clinical educator; CE)と一緒に学びながら使ってほしい。
- MTDLPをクリニカル・クラークシップ(clinical clerkship; CCS)方式による実習指導で用いると、CE、学生、実習施設、養成校それぞれにとって得ることが多く、養成教育の強化につながる絶好の機会である。



0917-0359/17/¥400/論文/JCOPY

はじめに―臨床実習で作業療法 プロセスを体験し学んでほしい

筆者は所属の養成校、目白大学(以下、本学)で実習統括係となり、1~3年生が臨床実習に出るための特論授業を企画し、その半分程度を担当、年間1~4年生60人以上の実習担当となり、臨床実習のことを常に考えている。自分自身の経験を振り返ると、新人OTの時は業務が多忙で先輩に教わる余裕がなく、実習で学んだことだけが頼りだった。特に、身体領域での実習で臨床の作業療法プロセスを経験できなかったら、このスタートはだいぶ違ったものになったと思う。実習中は失敗も悩みもあったが、対象者との関わりに強く興味関心をそそられ、プログラム実践も経験させてもらったため、その時の情景は今でもありありと



共育としての MTDLP —特集のまとめ

Motoko WATANABE

渡邊 基子

介護老人保健施設 ゆうゆう、作業療法士

生活行為向上マネジメントの現状

日本作業療法士協会(以下,OT協会)の平成28年度重点活動項目7項目のうち、「3.作業療法の有効活用の促進に向けた取り組み」において、「2)生活行為向上マネジメントを全会員に普及し関連他職種への認知度向上」は平成26年度、27年度からの継続項目として挙げられている¹⁾。OT協会は生活行為向上マネジメント(以下、MTDLP)をすべてのOTが活用できるよう、研修制度などを整備し、実施しており、研修受講者の割合は増えつつある。

同時に、重点活動項目「2. 作業療法士の技能の向上の取り組み」において「2)養成教育課程において生活行為向上マネジメントを含めた地域作業療法学を充実」が新規項目として挙げられている¹⁾。つまり、これまでは卒後教育としてMTDLP研修を実施していたが、これからは卒前教育においてもMTDLPを取り入れていく方向性にある。今後は、養成校教育においてMTDLPを習った学生が臨床実習に来て、そして就職することになる。このような流れを踏まえて、本特集を企画した。

本特集の流れ

本特集ではまず、OT協会MTDLP推進プロジェクト委員会担当理事でいらっしゃる土井勝幸氏に、OT協会としての立場から、卒前教育にMTDLPを取り入れる必要性を述べていただいた。学生がMTDLPを学ぶことで得られるものを具体的に示していただき、OT養成校での導入ならびに、養成校と連携した臨床実習での導入を後押ししていただいた。

机氏には、養成校において実際にMTDLP教育を取り入れている教員の立場から、その内容を紹介していただいた。学生にMTDLPを伝える重要性とその工夫点を示していただいたので、導入を検討している養成校の皆さんにはヒントになることが多かったのではないだろうか。また、臨床現場にいる筆者としては、養成校と臨床現場が連携しながら、MTDLPを主軸に一貫した指導を行っていく必要性を感じた。

次に、実際にMTDLPを用いた臨床実習を行った経験のある実習指導者4名に、担当事例にMTDLPを活用した学生と指導者との関わりを中心に、臨床実習でMTDLPを活用する際のポイ



在宅を見据えて 回復期のリハをすること

久世 昭宏

(㈱はんど)

はじめに

回復期リハ病棟は、2000年に創設されて以来、 毎年増床傾向にあり、2025年には現在(2015年) の約3倍にあたる38万床にすることを目指し整備 が進められ、今後の役割拡大が期待されている (日本経済新聞 2015年6月15日付)。

この回復期リハ病棟における、入院中のリハの質が退院後の在宅生活に大きく影響することが考えられ、限られた期間でより成果の伴ったリハの展開が必要となる。そこで本コラムでは、筆者が訪問リハに従事するきっかけとなった、「回復期リハ病棟から在宅へ送り出した後、自分たちのリハがどれだけ生活に役立っているのか」という観点から、実体験に基づいて感じたことを述べたいと思う。

在宅リハを経験して感じたことは,対象者の 方々が不自由さを感じながらも,いきいきと生活 されていることであった。生活すべき場所で,生 活すべき人と今の暮らしを営んでいる。回復期リハ病棟では、在宅は困難だろうと考えていた患者も、いざ家に帰ると元気に過ごされている姿や、できないだろうと思われた動作も自分なりになんとかできているという光景をいくつも見てきた。 筆者らが考えていた在宅と実際の在宅生活はここまで違うのかと感じながらも、人の可能性は尽きることがないと再確認できた。

回復期リハ病棟と在宅リハの決定的な違いは、 生活のリアリティである。対象者が生活している 環境で、困っていることに直接アプローチできる のが在宅リハの面白みである。回復期リハ病棟の 楽しさは、機能回復の過程に携わり治療をしてい るという実感を感じ取ることができ、在宅へ帰る ため、そして今後生活していくための基礎を構築 できる点にあると考える。在宅に携わるように なって、回復期リハ病棟での基礎の獲得がここま で予後に影響しうるものかと驚くほどである。回 復期リハ病棟は、チームの一員として、1人の患 者を在宅に復帰させるため一丸となり取り組んで いける素晴らしい環境であるとも感じている。

して が 大切にしていること

作業療法の 主役は 人である

障害者福祉サービスセンター ウェーブ 中越 太一 あえて,「あたりまえ」と, 誰が考えてもそ うあるべきだと思うであろうことをタイト ルとした。

しかし、精神科領域での治療や支援において、OT が考える「あたりまえ」は対象者に とって「あたりまえ」なのだろうか?

誰もが行うすべての作業活動をさまざまな目的で用いるOTは、活動を共にすることで相手への理解を深めることができるが、その際に「あたりまえ」という枠組みを外さなければ、主体性は対象者に帰属せず、OTが対象者の邪魔をすることになってしまう。だからこそ、対象者と支援者である自身を俯瞰する自分が必要となる。

疾患だけをみるのではなく、強みと弱みをもつ人をみる。OTは、その視点でリカバリーに寄与することができる。

OT

肌で感じる

現在,私がOTとして従事するうえで自分に問いかけている言葉がある。その言葉は,「邪魔していないか? | である。

現在、当事者主体の支援が一般的になっているが、その反面、「当事者主体」という名フレーズを利用し、支援者が思う理想の枠に当事者を当てはめようとしている部分もあるのではないだろうか? 実際、私自身もスタート時はそうであった。今回は、さまざまな気づきを与えてくれた A さんとのエピソードをもとに「OT として私が大切にしていること」を述べさせていただく。

私は養成校時代に、ある精神科医療機関で長期 実習をさせていただいた。

担当したAさんは、50年近く入院生活を続けている、いわゆる社会的入院の男性の方であった。何度も学生が担当しているためか、学生慣れしていた。

多くを語らず、単語での表現が多かった。いつ



レストランOT奮闘記

-- 汗と涙の就労支援

今後の障がい者雇用では 何が大切になるのか

仲地 宗幸

(㈱ NSP キングコング)



はじめに

本誌の13巻2号(2016年5・6月号)からこの 「レストラン OT 奮闘記―汗と涙の就労支援 | を連 載し、今回で8回目を迎える。16カ月にわたって 掲載されたこのコラムも、今回をもって最終回と なる。若干の寂しさはあるが、それ以上に書く楽 しさや言葉にする大切さを学べ、また読者の皆さ まからの反応やお言葉が何より自分の励みになっ たので、本当に感謝している。原稿を執筆する際 には、キングコングの店長や飲食統括部長、そし てキングコングを運営する(株) NSP の社長にもイ ンタビューを行いながら過去のエピソードを紐解 いていった。その過程の中で、当時は飲食と福祉 という対立構図でバチバチ火花を散らせていたこ とも、お互いの視点からはこう見えていたと理解 するきっかけとなり、より一層企業の中で障がい 者を雇用する意味の理解が促進されていった。今 回は、これまでの連載を振り返り、キングコング での関わりについてまとめてみたい。



障がい者と共に利益を出していくための "3 つの要素"

キングコングがプロジェクトとして障がい者雇用を始めてまだ5年程であるが(2017年6月現在)、雇用したほとんどのスタッフを一般雇用にしていくことができた。就労継続支援A型事業所(以下,A型事業所)をやめてからは、障害者総合支援法に基づく給付費収入がなくなっただけではなく、特定求職者雇用開発助成金を含む助成金も

受給していない。それは、われわれが障がい者と 共に目線をそろえて焼肉店だけで利益を出してい くことへの覚悟を自ら迫り、背水の陣を敷いたと いうことである。ただでさえ難しい飲食店経営 を、作業が非効率的な障がい者と共に、助成金な しに行うということをどうしたらできるのであろ うか。私は、今までの本コラムを振り返って以下 の3つの要素を抽出してみた。これは、言葉にす ると単純であるが、実践することは本当に大変で ある。障がい者雇用についての成書は多く出版さ れており、それなりにノウハウも集積されている と思うが、以下の項目についてキングコングの言 葉でまとめてみたい。

- ①個人を感じようとするキングコング
- ②強みを活かすキングコング
- ③目線をそろえるキングコング



①個人を感じようとするキングコング

個人を感じようとするキングコング。飲食店の特性として、客が多い時にはホールも厨房もてんやわんやになり、非常に慌ただしくなることが挙げられる。その状態では、まずみんな口調が荒くなる。いつもは下膳した食器を洗い場に置く時には「お願いします」と言うのだが、忙しくなってくると、勢いよくドンと黙って置いていってしまうのだ。その時には、「私が遅いから、ホールの係の人が怒ってわざとドンって置いていったんだ」「相手が私をいじめている」と思う方もいる。また、逆に客が少ない時にはどうなるかというと、やること探しが大変でイライラするのである。そ

CIセラピー のいろは

第3回

生活場面への汎化の 定着を強化する行動 療法 (トランスファ・ パッケージ) 一その 2 行動契約

田邉 浩文(湘南医療大学 リハビリテーション学科 作業療法学専攻)

はじめに

行動契約 (behavioral contract; BC) は、CI セラ ピー (Constraint-induced Movement Therapy) プロ グラム期間内でのプログラム参加者(以下.参加 者)の安全を確保することと、麻痺手の多用を確 保するために行われます。プログラム中、参加者 は麻痺手を使ってさまざまな活動に挑戦します。 その中には、麻痺手のみで行うと危険な活動や麻 痺手のみでは到底できない活動もありますので. いずれの手で行うべきかを明確にしておかなけれ ば、危険を冒して麻痺手のみで活動に取り組むこ とにもなりかねません。行動契約では、麻痺手の みで行うと危険と思われる活動はミトンを外して 非麻痺手で行うこと. 両手で行うべき活動は両手 で行うことを契約します。しかし、麻痺手のみで も安全に行える活動は、非麻痺手にミトンを装着 してすべて麻痺手のみで行うことを契約します。 行動契約は、単なる"口約束"ではなく、書面に よる正式な契約です。これにより、参加者は生活 上のすべての活動についていずれの手を使うべき なのかが明確になるのです。

麻痺手のみで行う活動の中には、プログラム終

了後、実際には麻痺手で行われないものも含まれます。たとえば、歯磨きやスプーンの使用など、通常は利き手で行われる動作も非利き手で行うことを契約する場合があります。それは脳の再構築のために麻痺手であえて行うのであり、その動作を非利き手で行うことを習慣化させるのではありません。2週間後、プログラムが終わり脳が再構築された後は普段どおり利き手で行われます。しかし参加者の中には、CIセラピーが終わった後も非利き手で利き手の動作を行うことが習慣化される方もいます。セラピストは、常に行動契約が遵守されているかについて、毎朝モニタリングの時に聞きます。

行動契約は、CI セラピープログラムの第1日目に病院/クリニックにおいてセラピーの最後(昼前)に行われます。翌週の月曜日(プログラム第2週目の初日)に修正され2回目の行動契約が行われるので、行動契約の有効期間は1週間となります。

行動契約の実施要領

1. 行動契約についての説明

行動契約の導入時には、最初に説明を、説明原

ADL潜者

第3回

トイレ動作への 介入

宇野 下頭 (甲西リハビリ病院 リハビリテーション技術部)



はじめに

筆者が OT として駆け出しの頃(今もそうだ が). 「トイレ動作への介入で大事なことは何です か? | と研修会で講師に教えを乞うたことがあっ た。筆者としては、動的バランスや道具操作、ト イレ環境への適応能力のことなどを深く考察して もらえるものと期待していたが、「それは、トイレ で失敗経験をさせないことだよ」という予想外の 回答であったことを今でも鮮明に覚えている。今 回は、トイレ動作の特性を、トイレ動作と脳損傷 者における問題との関係性を含めて、筆者なりの 解釈で述べさせていただく。



「その人らしさ」に深く関わるトイレ動作

臨床に携わる OT として、当事者や家族に「今、 生活で困っていることは何ですかしと問いかける と、機能回復の訴えであったり、痛みの軽減の訴 えであったりとさまざまな答えが返ってくる。し かし、生活場面に関することになると、「1人でト イレに行けるようになりたいです | という訴えが 圧倒的に多く、家族からも「トイレくらいは1人 で行ってもらいたい」という同様の声が多く聞か れる。トイレ動作の訴えが他の ADL と比べて多 い理由としては、トイレ動作の自立が、単に排泄 行為が1人でできるという生活技能の獲得だけで なく、家族ですらふれることを躊躇するような当 事者の「自尊心=その人らしさ」に深く関わる部 分が大きいことにある。トイレ動作の介助と自尊 心の関係性については医療・看護の分野で数多く 論じられているが、他者の介入時に①排泄物の臭 い. ②排泄物の露見. ③性器の露出に羞恥心を強 く感じるといわれており1),病前の ADL が高けれ ば高いほど、それらの羞恥心は社会的な自尊心の 低下に深く影響する。

ポイント

▶イレ動作の訴えが多いのは、当事者の自 尊心=その人らしさに深く関わる部分が大 きいからである。



トイレ動作の特性と脳損傷者における問題

トイレ動作は、食事や更衣、入浴動作のように 1日の生活の流れの中でおおよそ決まった時間帯 にスケジュールとして組み込まれる外因的要素の 大きい ADL とは異なり、尿意・便意を感じた時 が遂行のタイミングとなる内因的要素の強い ADLであることが特性の1つであると考える。ト イレの環境特性としては、狭く閉鎖的な空間は外 界から遮断されたパーソナルスペースであり、そ の狭小空間が故に車椅子や歩行器での進入や取り 回しは難しく、在宅では便座への接近はおのずと 歩行に限られることが多い。病院・施設などで車 椅子や歩行器のまま便座に接近できたとしても. その形状と配置から90~180度の方向転換が必要 とされる。方向転換・下衣操作・着座までの流れ るような一連の動作は、トイレ空間内での自身と